



浜水高

# 図書館だより

## 浜田の地形と産業

浜田市街は小高い丘が点在していて独特の景観をつくりだしています。そして浜田港の風景も、小さな島が点在していて、まるで瀬戸内海の風景のようです。浜田市街の小高い丘はもとは小島で、浜田川の堆積作用によって周囲が埋め立てられたものと考えられます。太古の浜田には真珠の養殖で有名な三重県の英虞湾（あごわん）のような風景がみられたと思われま

す。今は浜田駅の南口は広い商業地や住宅地になっていますが、昭和の時代には浜田駅のすぐ南側には山がありました。その山の名前は道分山と万灯山と言ひ、道分山は市営駐車場の名前として、万灯山は公園の名前として残っています。道分山の名残りは東光台のある丘です。道分山と万灯山の間には浜田駅側と浜田川の南側を結ぶ道路があり、万灯山公園の東側の道路がそれにあたります。浜田駅周辺の開発については浜田市長をされてきた梨田精氏の著書『我がふるさと～石州瓦のはじまりと伸びゆく浜田駅前』に詳しく記されています。この著書はふるさとがどのように発展してきたかを知るととても良い資料です。

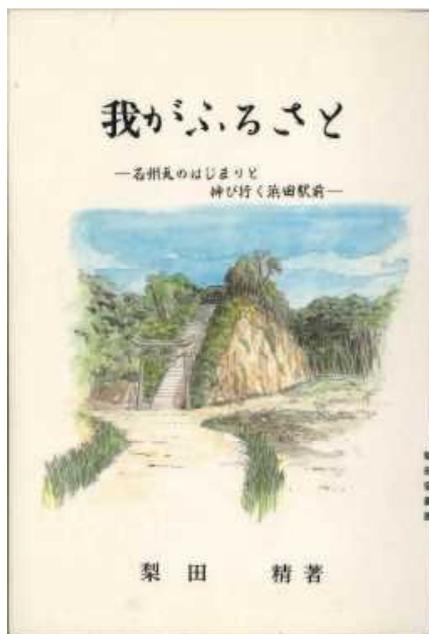
道分山には瓦工場がありました。大田の石見銀山近くから江津を経て、益田に至る都野津層という瓦など焼き物を造るのに良質の粘土の出る地層があります。浜田の中心部にも都野津層があつて、焼き物造りが盛んだつたのです。小高い丘は土を掘って、焼き物を焼くのに都合のよい場所だつたのです。

浜田港は海岸線が複雑な形になっていて、入り江が入り組んでいる部分のあるリアス式海岸です。現在の浜田港は漁港と商港からなる大きな港ですが、江戸時代には外ノ浦、瀬戸ヶ島、長浜がおもな港でした。特に外ノ浦は川のような深い入り江になっていて、江戸時代には航海に都合のよい風や潮流になるのを待つ「風待ち、潮待ち」の良港として北前船（西廻り航路）の寄港地にもなっていました。外ノ浦は、深い入り江なので台風が来たときにも安全な避難場所になりました。外ノ浦は 2021 年 3 月 31 日に日本遺産に認定されました。江戸時代と変わらない港の風景が魅力的です。

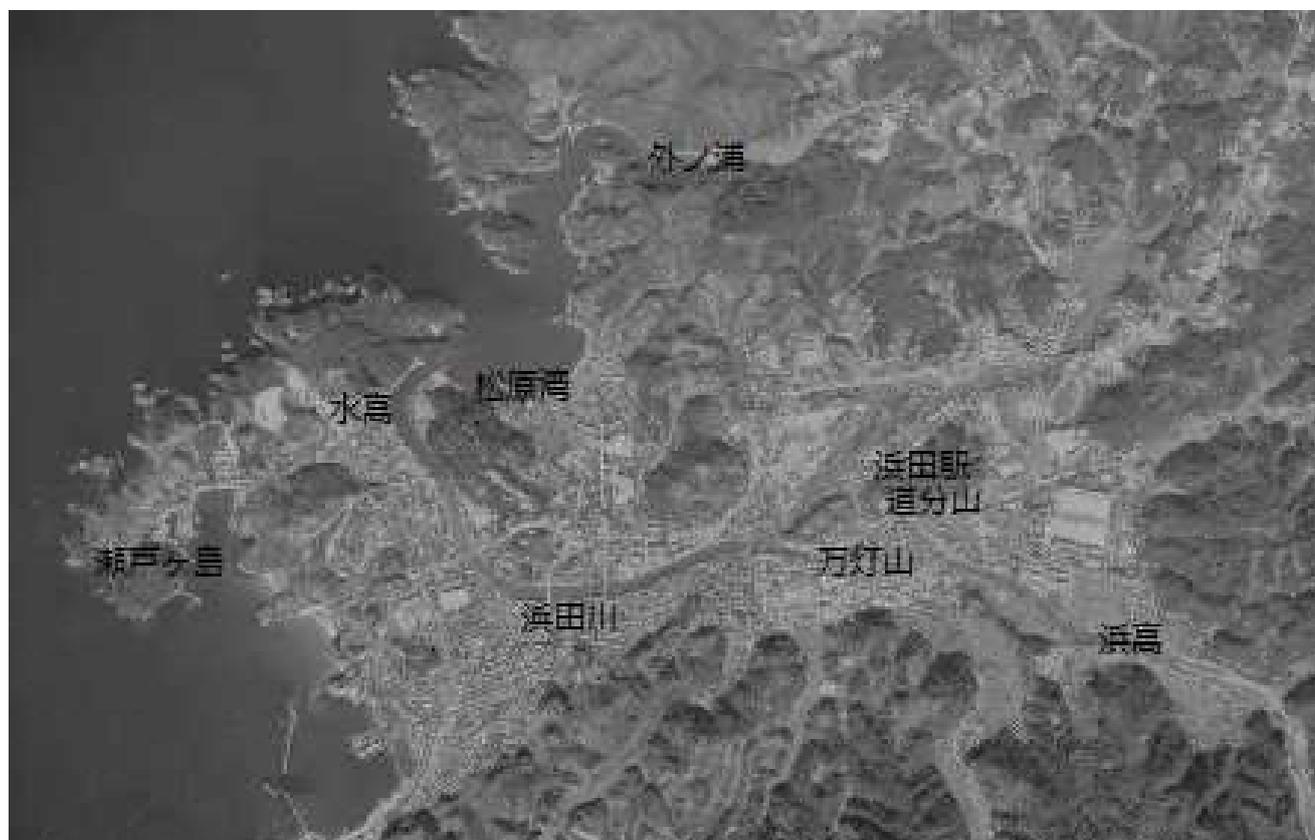
浜田独特の地形が漁業や窯業という産業に影響を与えてきたのです。



日本遺産に認定された外ノ浦  
（北浦撮影）



元浜田市長の梨田精氏の著書です。  
図書館に置いてあります。



1967年（昭和42年）の浜田市街